



幕別町発達支援センター わになって

令和6年度
第5号

令和6年12月23日発行

今年も残すところあとわずかとなりましたが、皆さんにとってはどんな1年だったでしょうか？発達支援センターでは、忠類分室【ろりぽっぷ】が設置され、本町の施設【どろっぷす】も新たな気持ちでスタートして9か月が経ちました。対象区域が広がっただけではなく新たにスタートした事業もあり、町の中核的な施設としての役割を改めて意識した1年になったように思います。

さて、まもなく新しい年を迎えます。次は“巳年”。2025年は“乙巳”と言って『努力を重ね、物事を安定させていく』という意味を持つ年とされているそうです。子ども達、保護者の皆さんとともに、“実(巳)”になる年になりますように！（祈）



発達支援講演会を開催しました！

11月22日札内コミュニティプラザにおいて、天使大学教授の二宮信一さんを招き、『子どもに対する愛着形成の課題～時代の変化とともに変わる子育て～』と題して講演会を開催しました。参加された方もいるかと思いますが、講演の内容を一部お伝えいたします。

【愛着とは】

危機的状況に接し、または危機的状況を予知し、恐れや不安といったネガティブや情動が喚起された時に、特定の人への接近を通して安全の感覚を回復・維持しようとする行動。

- ★愛着は、対人関係形成の基盤となる。
- ★愛着形成は、自我・社会性・意欲・心の成長や発達の土台、感情や行動の調整、自己肯定感の形成につながる。

【安全基地とは】

精神的に安定し保護されていると実感できる環境・心の拠り所。助けを求めて来た時にすぐに受け入れ避難場所を提供する存在。

- ★困った時に助けてくれる人がいると、自発的・自主的に行動できるようになる。
- ★幼児期に愛着形成が上手くいかなかった人も、安全基地となる人との出会いにより回復することは可能。

マルチトメント(不適切な養育)

背景には複合的な課題が生じていると考えられるが、子どもには心の傷だけでなく、脳に直接的なダメージをもたらす。また、その不適切な関わりが認識なしに養育者や保育士、教師によって日常的に行われてしまっている場合もある。子ども同士を比べるのではなく、一人ひとり違った個性や良さを持っているという“個育て(子育て)”の視点を意識することが大切。

協働の子育て

時代とともに社会が大きく変容した今、これまでのヒト・モノの見方や考え方をアップデートする必要がある。これからは、家庭、子育て(発達)支援センター、保育所や幼稚園、学校が協働で“個育て(子育て)”をする時代。

- ★大人同士の関係が子どもの環境を作る。
- ★求められているのは、大人同士の対等な関係に基づく、緊密な情報交換。



おねがい

*大雪などの悪天候等により療育を中止する場合がありますのでご了承ください。その際は、状況に応じて電話連絡をいたします。また、路面状況が悪い場合、慌てずに安全運転でお越しくください。

*雪遊びなどの活動を行う場合もありますので準備をお願いいたします。

*事業所評価アンケートについて

令和7年1月～2月に、児童発達支援及び放課後等デイサービスを利用する保護者の方に配布いたします。よりよい運営の参考にさせていただきたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。